

2019年5月17日

高校生以上の学生対象・がん検診でがんの早期発見を訴える

第7回がん征圧ポスターデザインコンテスト 岡山県立岡山南高等学校 森上早雲さんの作品が最優秀賞

最優秀賞

森上早雲さん（岡山県立岡山南高等学校2年）

『「大丈夫」？』

【作品説明】

家族、友人から病院に行くのを勧められても「まだ、大丈夫」と勝手に自己診断をして行かない人が多いと聞きました。本当に大丈夫だと思うために病院できちんと診てもらって欲しいというメッセージを込めてデザインしました。コピーを斜めに傾げることで、右の人物から左の人物へとストーリーが繋がるように工夫しました。

【講評】粟辻美早先生

虫メガネをうまく使った、アイデアあるコトバ遊び。インパクトの強い大胆な構成が、とても印象に残りました。言葉の中に隠されたメッセージは、多くの人が抵抗なく自分への忠告として受け止めるでしょう。この作品には、検診を後回しにしている人々の背中を押す力を感じます。



審査員（敬称略・50音順）
 粟辻美早（グラフィックデザイナー）
 猪俣研次（厚生労働省健康局がん・疾病対策課課長補佐）
 岸田 徹（NPO法人がんノート代表理事）
 後藤尚雄（公益財団法人日本対がん協会理事長）
 中川恵一（東京大学医学部附属病院放射線科准教授／放射線治療部門長）
 廣村正彰（グラフィックデザイナー）
 本田 亮（クリエイティブディレクター）
 本多昭彦（公益財団法人日本対がん協会 広報グループマネジャー）



審査会で最優秀賞作品を囲む審査員

高校生以上の学生を対象に公募した「第7回がん征圧ポスターデザインコンテスト」の入賞作品（最優秀賞1点、優秀賞4点、入選8点）が決定しました。このコンテストは、若い世代に「がん」や「がん検診」について知ってもらい、新鮮な発想でがん検診の受診を呼びかけるポスターを作成することを目的に開催しました。

最優秀賞の森上早雲さん（岡山県立岡山南高等学校2年）の作品は、アイデアあるコトバ遊びとインパクトの強い大胆な構成が印象に残るユニークな点が評価されました。優秀賞は、中山亮さん（愛知工業大学2年）、佐藤里菜さん（静岡文化芸術大学大学院1年）、宮田怜佳さん（東京造形大学2年）、井澤詩萌さん（岡学園トータルデザインアカデミー1年）に決定しました。また、最終選考に残った8作品を「入選」といたしました。

※学年は2019年3月の応募当時

最優秀賞の作品はポスターにして、全国の自治体、保健所、病院などで約5万部掲示される予定です。

詳しくは「がん征圧ポスターコンテスト 公式サイト」（<http://www.jcsposter.com/>）をご覧ください

優秀賞

※学年は2019年3月の応募当時・順不同

中山亮さん (愛知工業大学 2年)



『小さな危険』

全体の構成はシンプルにして、中心の図形は放置しているとどんどん成長していくという意味を含めて余白を全面的に使いました。本作では、第一に見てもらふことを目的とし、一目見た時に「なんのポスターであるのか」と注意を引き、さらに通勤などの移動中でも端的に内容がわかるように工夫しました。今後、余白を黒くしていくのか、それとも白くするのはあなたの行動次第であるというメッセージ性も込めています。

【講評】 本田亮先生

たくさんの秀作がそろった中で白スペースが大胆なデザインが目をついた。最優秀賞にすべきだという声もあったが過去に類似アイデアがあったために優秀賞となった。シンプルなデザインでも、スペースや色の使い方、コピーワークに高いディレクション能力を感じる。

佐藤里菜さん (静岡文化芸術大学大学院 1年)



『母からの電話』

一人暮らしをする子供をつい心配してしまうのが親心です。「ちゃんと食べてる？」は健康を気遣う常套句ですが、それと同じくらい「がん検診には行った？」と聞くことが当たり前になってほしいとの願いを含めました。コピーには「がん」という強い言葉を使わず、左下の協会名を見ることで初めて「がん検診」と分かるように配慮しました。

【講評】 粟辻美早先生

少し前屈みに心配する母の姿が、イラストの優しいタッチによって、より深い愛情を感じさせます。自分を心配している人のために、その人を安心させるために。心あたたまる母の問いかけが、若い人たちの心にもきっと届くはずですよ。

宮田怜佳さん (東京造形大学 2年)



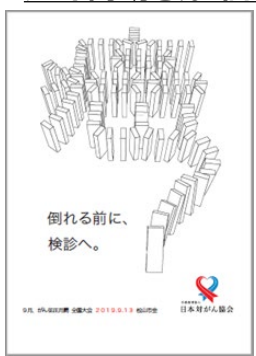
『疑え』

日本人の2分の1が人生に1度はがんになるという話を聞いて、自分も含めて同じ場にいる誰かが今この瞬間がんになってもおかしくないと思いました。誰もががんになりうるという事を「癌」という漢字そっくりの存在しない漢字で表現しました。全体の半分の数ずつを「癌」と「癌かもしれない」漢字でランダムに埋め、誰ががんになってもおかしくないという事を表しています。

【講評】 本田亮先生

日本人の2人に1人ががんになるという表現が多い中でこの作品がもっともビジュアルインパクトがあった。まだ「癌」になっていない人にも可能性がある。今は「癌」の一手手前かもしれないという恐怖を感じることができる。見る人が自分事として考えさせられる作品である。

井澤詩萌さん (岡学園トータルデザインアカデミー 1年)



『倒れる前に』

がんにかかり倒れてしまう人をドミノで例え、「ドミノが最後まで倒れる前に検診へ」＝「自分が倒れる前に検診へ行くこと」をかけたデザインにしました。

【講評】 本田亮先生

がんが進行する前に検診に行こうというメッセージがシンプルなデザインでユーモラスに表現されている。一方で倒れるのは「癌」ではなくて「人」ではないかという意見も出て、人によって捉え方が違う作品となった。しかし、アイデアのユニークさを評価して優秀賞とすることにしました。

入選

氏名	学校名・学年	作品タイトル
本田 裕一郎	専門学校穴吹デザインカレッジ 1年	一歩踏み出せば
佐藤 里菜	静岡文化芸術大学院 1年	あなたか、あなたの大切なひと。どちらかのはなしです。
中川 翠	倉敷市立短期大学 1年	関係ないなんて 言わせない。
石田 晴也	静岡産業技術専門学校 1年	命のかたむき
鈴木 遼太	明治大学 4年	巢食われる前に救われよう
山内 虹渡子	大阪成蹊大学 1年	がんけんしんにいこう
三澤 奏子	金城大学短期大学部 1年	見つけようとしなだけ。
藤井 彩未	河原デザイン・アート専門学校 1年	今ならまだ、きれいに消せる。

※学年は2019年3月の応募当時・敬称略・順不同

◎応募者
高校生・高等専門学校生・専門学校生・短大生・大学生・大学院生
◎募集期間
2019年1月16日
～3月25日
◎応募者数 106名
◎作品総数 115作品

がんには負けない社会をつくる。



公益財団法人

日本対がん協会

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします

■公益財団法人日本対がん協会 広報グループ Tel: 03-3541-4771